PEN 言語教育サービス
Reports for English Education

PLES Report 19
慣用表現力を育てる

田中茂範（PEN言語教育サービス）

はじめに

どんな言語にも非常にたくさんの慣用表現というものがあります。認知言語学の枠内で、John Taylor は、言語の慣用性を重視し、この慣用化された言語をどう扱うかが「言語＝語彙＋文法」観のアキレス腱であると述べています。慣用表現は、慣用的に使われる定型表現のことであり、その言語を話す人が共通に使う表現のことをいいます。例えば「さようなら」や「すみません」は日本語において典型的な慣用表現です。慣用表現は、理屈を考えずに、当たり前に使っているもので、何かを言う際に、なんら負荷がかからない表現だといえます。例えば、日本語で「すみません」を使う際に、「なぜ『すみません』というのか」を考えたりしません。語源的には「心が清んだ状態でいられない」に関係があるという説があるようですが、私たちは、「すみません」という決まり文句を「謝罪」の場面だけでなく、「感謝」の気持ちを表す時や、さらには「相手の注意を喚起するとき」などにごく自然に使っています。「すみません」は１つの表現に過ぎませんが、それが日本語を使う場面で果たす役割の大きさははかりしれません。

デンマーク出身の言語学者イエスペルセン（Otto Jesperson [1860-1943]）は、言語には慣習と創造の２つの側面があり、慣習は“How do you do?”のような“formulas”と、そして創造は“I gave the boy a lump of sugar”（「give ＋名詞＋名詞」の１事例)のような“free expressions”と結びつくと述べています（Jesperson, 1933, p. 18)。これは言語のありようをうまく言い当てた表現だといえます。筆者は、ここで free expressions を「自由表現」、formulas を「慣用表現」と呼びます。自由表現は、必要に応じてその都度文法に従って作りだされる表現のことをいい、一方、慣用表現は、多くの人々が繰り返し使うことで表現が定型化したものをいいます。

第二言語教育の分野では、今や「コミュニカティブ・アプローチ」が主流になっています。このアプローチでは、文法シラバスというより、機能シラバス（why don’t you …などの慣用表現を重視したシラバス）を重視するところにその特徴があります。しかし、そういった指導法が実践されているにもかかわらず、学習者は慣用表現をうまく使いこなせてないというのが第二言語習得研究から分かっていることです。つまり、慣用表現は重要であり、実際の指導でもその重要性が強調されているにもかかわらず、その習得はむずかしいということです。では、どうすれば慣用表現力を育てることができるか。これが本稿での主題です。

慣用表現は「定型文（formula)」だとか「決まり文句(stock expression)」あるいは「熟

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

語(idiom)」などと呼ばれ、その重要性はわかっていても、慣用表現の世界にどう接近していいかわからないという学習者が多いし、これは英語教師にとっても同じだといえます。実際、大学生に聞いてみると、その多くは、「熟語はそれが何であれ、覚えるしかない」と考えているようです。そして、共通している学習方法は、熟語帳を丸暗記するか、熟語が出てきたその都度、それを覚えていくというやり方で慣用表現を学んでいくかの２つです。その結果、多くの学習者は、折角覚えたものの、それをうまく使いこなせないと感じているのが実情です。研修会などを通して多くの英語教師と意見を交換する機会がありますが、慣用表現の取り扱いについては、教師も学習者と全く同じ考え方を共有しており、「慣用表現の体系的な指導法」や「慣用表現力を鍛える」という発想はないというのが現状だといえます。

筆者は、上述したように、慣用表現力は、語彙力と文法力とともに言語資源（language resources）の３つの柱を構成すると考えています。そこで、語彙論と文法論と同様に、慣用表現論を展開することが必要です。上記の第二言語習得研究においても、formulas だとか formulaic sequences という言葉は使われ、その使用実態が研究の対象になっていますが、「慣用表現力とは何であるか」についての理論的考察があるわけではありません。そこで、慣用表現力を操作的に定義する必要があるというのが筆者の考えであり、本稿ではその構図を描いていきます。以下、議論の展開として、(1) 慣用表現の種類（types of formulas）、(2) ストックとしての慣用表現（the stock view of formulas）、そして(3)フローとしての慣用表現（the flow view of formulas; formulaic sequences）の３つに注視した議論を行います。なお、ストックとしての慣用表現は、何をどう学べばよいかという問題に、そして、フローとしての慣用表現は、慣用表現力とは何かという問題に連接するものです。

慣用表現の種類

まず、慣用表現の種類についてみていきましょう。慣用表現といっても、その守備範囲は大きく、茫漠としています。しかし、慣用表現を分類する枠組みがなければ、学習者は、方向性を持たないまま、慣用表現をランダムに覚えていくことになります。そこで、どういう分類基準が可能かということですが、実に多様な分類が提案されています。筆者は、慣用表現の世界を大雑把に整理する観点として、筆者は以下が有効であると考えています。

① 機能表現（機能慣用チャンク）: Why don't you …? （～したらどうですか）、Could you …? (～していただけますか)、Don't forget to … (～するのを忘れないように)、You are supposed to …(君は～することになっているはずだ)、I agree to a certain point, but …（あるところまでは賛成ですが）など。

② 丸ごと表現（丸ごと慣用チャンク）: Give me a break. (いい加減にしろよ)、Here we go.（さあ、やるぞー)、Forward march.（前へ進め)、Way to go.（いいぞー)、 You must be kidding.（ご冗談でしょう)、I did it.（やったー）など。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

③ 文法構文表現（構文慣用チャンク）: had it not been for ....（もしあのとき～がなかったなら）、 nothing is more A than B（ＢほどＡなものはない）、it goes without saying that ...（～なのは言うまでもない）、in such a way as to ...（～するような方法で）など。

④ 句動詞 : take up(取り上げる)、give off （臭いなどを発する）、add up to（～に加える）、put up with （～にへこたれない）

⑤ 副詞表現（副詞慣用チャンク）: in the end（最終的には）、as a result（結果としては）、in other words（言い換えれば）、by and large（概して）、to be more specific（もっと具体的にいうと）、among other things（とりわけ）など。

⑥ 動詞表現（動詞慣用チャンク）: beat around the bush（回りくどい表現をする）、call a spade a spade（歯に衣着せぬ言い方をする）、speak ill of （～の悪口をいう）など。

⑦ 形容詞表現（形容詞慣用チャンク）: clean as a whistle（きれいでピカピカ）、poor as a church mouse（とても貧しくて）、silent as a clam（二枚貝のように口を閉ざして）、quiet as a mouse（とても物静かで）など（a great deal of や a slice of など数量に関する熟語もここに分類することができる）。

⑧ 前置詞表現（前置詞慣用チャンク）: with respect to（～に関しては）、in spite of（～にもかかわらず）、in terms of ...（～については）、in light of ...（～に鑑みて）など。

⑨ 諺・箴言: Too many cooks spoil the broth.（船頭多くして船山にのぼる）、An early bird catches a worm.（早起きは三文の徳）, You're barking up the wrong tree.（お門違いだ）など。

機能表現（functional expression）は「依頼する」「提案する」「紹介する」「念押しをする」など目的に対応する慣用表現のことをいい、これはコミュニカティブ・アプローチの旗印の１つになっています。言語行為論（Austin 1962）を踏まえ、広く教材にも取り入れられています。「....していただけないでしょうか」だとか「何といっていいか...」といった表現は、それぞれ「依頼する」「ためらいながらあることに返答する」という目的にために使うことのできる、機能表現とみなすことができます。

しかし、慣用表現は機能表現だけではありません。ここでいう「丸ごと表現」は、文字通り、日常的に耳にする丸ごとで使われる決まり文句のことをいいます。「さようなら」や「すみません」は丸ごと表現です。丸ごとチャンクを機能別に分類すれば、その多くは機能慣用チャンク中で整理することができます。例えば Give it a try.（やってごらん）は丸ごとチャンクですが、「激励する」という目的の表現としてまとめることができます。

構文慣用チャンクは、文法書で慣用表現として扱われてきたものを指します。if it had not been for ...や had it not been for ...は仮定法の仮定法過去完了の決まり文句として取り扱われています。この構文チャンクも丸ごと慣用チャンク同様に、目的を明確にすれば機能慣用チャンクの中に組み込むことができはずです。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

したがって、機能慣用チャンク、丸ごと慣用チャンク、構文慣用チャンクは強調点の違いを反映した言い方であって、厳密に境界を引くことのできる分類項ではありません。しかし、以上の３つは、慣用表現の分類としては教育的に有益な分類法であると考えます。

以上の３つに加え、句動詞チャンク、副詞慣用チャンク、動詞慣用チャンク、形容詞慣用チャンク、前置詞慣用チャンクがあります。これらは、品詞的な分類で、比較的区別しやすい慣用表現だといえるでしょう。さらに、諺や箴言の類の表現も多数存在し、これも１つの独立した分類項だとみなすことができます。もちろん、副詞慣用表現や動詞慣用表現なども「目的・意図」に沿って分類する必要があります。

ストックとしての慣用表現

機能慣用チャンクを上記の通り「目的・意図」別に分類しても、そのままではリストに過ぎません。学習上重要なのは、ただリストして蓄えるのではなく、有意味なネットワークを作るということです。リストのままでは、単語の学習でいうならば、ちょうど「単語と意味の対応関係」が示されたに過ぎず、有意味な単語学習では、複数の単語の意味のネットワークが必要なように、慣用表現においても同じことがいえます。すなわち、学習者は「慣用表現ネットワーク」を身に付けていく必要があるということです。ここでは、その具体例として、「提案する」に関する慣用表現を中心にして、慣用表現ネットワークがどういうものかを例示してみます。

提案する

- A.提案を求める「どうしたらいい？」
  - What do you think I should…?
  - What would you think if I …?
  - Do you have any ideas about how I can …?
- B.相手に提案する「…してみたらどう？」
  - Why don't you ….?
  - Don't you think you should ….?
  - It might be better to …
- C.　自分も含めて「…しようよ」
  - Why don't we …?
  - Let's ….
  - Perhaps we should …

提案に関する動詞&名詞　動詞：suggest, propose, advise
名詞：suggestion, proposal, advice, idea

提案タイプ B に関する関連表現

・相手の注意を喚起する：I'll tell you what., I've got something to tell you., Hey, listen.
・相手の反応を忖度しながら（提案に入る）: I don't know how you feel but…, You may feel it absurd, but …, I'm sure you like this idea.
・提案を実行するように促す：Go ahead., Try it., Give it a try.

図１：提案表現ネットワーク

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

まず「提案する」といっても、(1) 相手にどうしたらよいか提案してくれるように求める、(2)相手に「～したらどうか」と提案する、そして、(3) 一緒に「～しないか」と提案するという３つのタイプが考えられ、それに合った慣用表現を割り振ることでネットワークを作成することができます。しかし、それだけでは不十分です。なぜなら、例えば提案タイプＢの場合、いきなり何かを相手に提案をするというより、「相手の注意の喚起」し、そして「相手の反応を忖度しながら」提案に入っていくのが普通だからです。また、相手に何かを提案するという場合、「～するのはどうですか。頑張ってやってごらん」と「後押しの言葉」も付け加えることがあるでしょう。すなわち、「注意の喚起」「相手の反応の忖度」「提案内容」「実行を促す」に関係する慣用表現をネットワーク化していくことが必要であり、そうしたネットワーク知識があれば、以下のような形で、何かを提案するという行為に一連の流れがでてきます。

注意の喚起：Hey,　listen.（ねえ、ちょっと）
相手の反応を忖度：Well, you may feel it absurd,　（ちょっと馬鹿げていると思うかもしれないけど）
提案：but why don't you ask Naomi to lend you some money?（ナオミにお金を貸してくれと頼んでみたらどうかな）
激励：Just give it a try.（やってごらんよ）

すなわち、慣用表現のストックのしかた次第で、慣用表現が使いやすくなるということです。

　もうひとつ例を見てみましょう。「驚き」や「感動」を表す際の表現も慣用化されたものがほとんどです。少し見ていきましょう。「驚き」の間投詞といえば、Wow!、 What?!、 Gee!、Oh, my God!、 Oh, dear! などが典型的です。感情をストレートに表現するのがこうした間投詞だといえます。日本人は表情が少ない（emotionless）だとか不可思議だ（enigmatic）と形容されることもあるようですが、驚きの間投詞を含む、感情表現を実践の場で使うことも必要です。そこで、驚きの表現のストックを持っていることが求められるわけですが、ここでも以下のような感表表現ネットワークを作成すると、表現力に繋がりやすいといえます。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

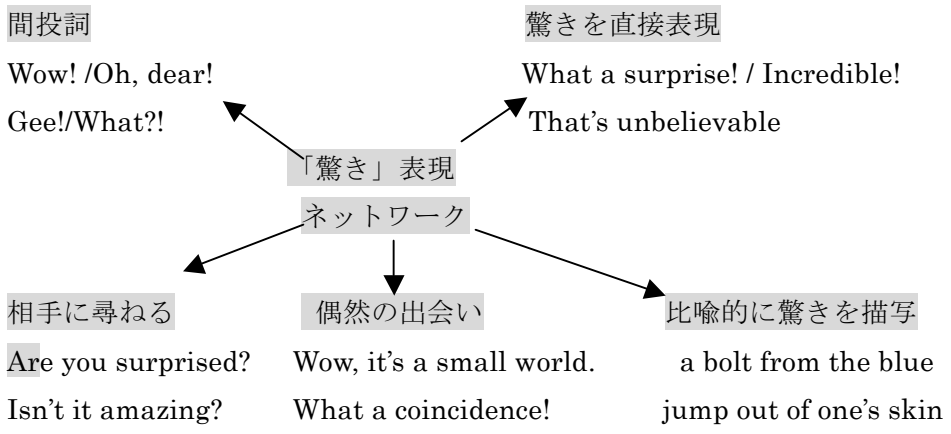

図２：感情表現（驚き）のネットワーク

簡単に説明しましょう。びっくりしたときは日本語でも「わあ！驚いた」といいますが、英語でも驚きを直接表現するものとして、What a surprise! を筆頭に以下のような決まり文句があります。

That's amazing. それは驚きだ /Oh, I'm really surprised. ああ、本当に驚いちゃった/ I'm shocked.びっくりした/ This is a nice surprise.うれしい驚きだね/Incredible.まさか/That's unbelievable. それって信じられない/Unbelievable.うそでしょう/I can't believe it. とてもじゃないけど、信じられない/Can you believe it? それって信じられる？

相手を驚かせておいて「驚いた？」と問いかける状況も考えられますが、その場合は、次のような表現が典型的だといえます。

Are you surprised? 驚いた？/Does that surprise you? それ聞いてびっくりした？/ Is this a surprise? ねえ、驚きでしょう/Isn't it amazing? なんかすごくない？/Can you believe it? それって信じられる？

また、同じ「驚く」といっても、旧友に予期せずところで出会い「世の中って狭いね」に当たるのは、Wow! It's a small world. です。What a coincidence! という言い方もあります。a coincidence は co- （共に）、-incidence （発生）の合成で、「（事件などの）同時発生」「偶然の一致」といった意味になります。よって、What a coincidence! は「何か（行動・言動）が偶然に一致したことが不思議だ」という意味合いです。We met again at an unexpected place. It's not just a coincidence. That must be a fate. だと「ぼくらは予期しない場所で再会した。それはただの偶然じゃない。きっと運命的な何かだ」という意味合いです。さらに、驚いたということを事後的に描写する際、比喩的な響きのする慣用チャンクもいろいろあります。日本語に「晴天の霹靂」という言い方がありますが、これに当

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

たる英語は、a bolt from the blue あるいは out of the blue の２つです。何かが予期しないところで起こり、びっくりするという状況での表現だといえます。 そこで、The chairman's resignation came as a bolt from the blue!は「会長の辞任は晴天の霹靂だった」ということだし、The fight started out of the blue. も「その喧嘩は突如起こった」ということです。驚くといっても自分の目を疑ってもう一度よく見るという状況があります。英語では do a double take という言い方をすることがあります。He did a double take when he saw his fiancé in a restaurant with another man.だと「彼は、フィアンセが別の男性とレストランにいるのを目撃して、自分の目を疑った」ということです。「死ぬほど驚く」に近いのが jump out of one's skin で、 She nearly jumped out of her skin when a strange man put his head through the window!（見知らぬ男が窓から頭を中に入れているのを見て彼女は死ぬほど驚いた）はその例です。「驚いて言葉を失った」ときは Words fail me! という決まり文句があります。このように、「驚き」を表際の慣用表現を目的に合わせてネットワークしておくと、多様な形で驚きの表現をすることが可能となります。これが慣用表現ネットワークの強みだといえます。

フローとしての慣用表現

しかし、ストックとしての慣用表現だけでは、慣用表現力を高めるのには十分ではありません。そこで必要なのが「フローとしての慣用表現」という考え方です。つまり、自由に言語表現をする際に、慣用表現がどういう役割を果たすかに注目するということです。ここでいう役割がはっきりしてくれば、それに応じたトレーニングやエクササイズを組み立てることも可能となるはずです。

言語処理の観点からは、慣用表現は、それ自体が共有されたチャンクであることから、構文を組み立てるというコストが低いということがいえます。そして、対人コミュニケーションにおいても、話し手は聞き手が期待するような言語表現を使うことで、やりとりが円滑に進むという可能性があります。

筆者は、学習者が英語を使って表現するという観点から、慣用表現には、以下の４つの注目すべき働き（役割）があるように思います。

① 慣用表現は効率よくある思いを表現するのに最適である（expressive optimization）。
② 慣用表現は英語表現の組み立てを容易にする（constructional easiness）。
③ 慣用表現は表現の流れを自己調整する働きをする（conversational management）。
④ 慣用表現の連鎖がプレゼンだとかチエアリングといったスキルになる（formulaic chaining）。

① は慣用表現の利点として一般に指摘されているものです。③は Wray のいうコミュニ

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

ケーションの円滑化における効果とほぼ同じ内容だといえるでしょう。ここで、筆者は②と④をその効用に加えたいと思います。以下では、それぞれについて簡単に説明していきます。

意図表出の最適表現

まず、慣用表現は思いを言語で表現するのに最適です。これを英語で“expressive optimization”と呼びます。たとえば誰かに何かをしてもらって恐縮した気持ちを表現するのに「どうも、すいません。ありがとうございます」という慣用表現を使えば、無難です。つまり、これが相手が話し手の意図を理解する上一番効率のよい表現ということです。「どうも」あるいは「どうもすいません」は日常的にそこかしこで耳にする言葉であり、感謝する場面だけでなく謝罪する場面でも使われます。仮に慣用的な言い方を知らず、「そんなことをしていただくと心の負担が大きくなり、とても落ち着いた気持ちではいられなくなります」といえば、意図は通じるかもしれませんが（そして文法的にも正しいが)、自然な感じがしないし、場合によっては相手に失礼な印象を与えるかもしれません。同じことがどの言語でもいえます。

ここで一言述べておきたいことがあります。それは、第二言語としての英語学習における慣用表現の研究は、英語の母語話者をモデルにしているということです。しかし、英語は、今や、世界共通語として使われているという視点を考慮した上で慣用表現の役割を論じる必要があります。英語が共通語として機能する際のコモン・コアがあるはずですが、それは何であるかという問題が出てきます。世界共通語としての英語は、使用者の文化的色彩が加わり、英語の多様化が進むことは当然です。しかし、英語がどのように使われようと、それが英語である限り、その使用は「語彙」と「文法」は共有するようにするだろうという予測が立ちます。例えば、過去の事柄を語る際に「過去形」を使いますが、その過去形は英語の文法規範に従って作られるだろうということである。問題は慣用表現ですが、筆者は、提案や依頼を表す慣用表現や感情を表現するものの多くはコモン・コアに含まれると考えます。Could you please …? は依頼する際に英語母語話者が用いる典型的な慣用表現です。世界中で英語を学び、英語を使う人も、学習過程でこの表現を学び、実際に使うことを選ぶだろうと考えられます。というのは、Could you please …?が何かを相手にしてほしいときにその意図を伝える最も直接的な表現だからにほかなりません。たしかに、この表現は英語圏で発達した表現ですが、コミュニケーションの効率性ということから、世界中の人が共有して使うことが予想されるということです。もちろん慣用表現の中でも、例えば a bolt out of the blue といった表現になると、英語圏以外の人に使っても伝わらないということが大いに考えられます。それは、a bolt out of the blue が文化色の強い表現であり、一般化しにくい表現だからです。

表現組み立てのための型

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

次に、慣用表現はいいたいことの「型」を提供するため、英語での表現の組み立てを容易にしてくれるという効果があります。慣用表現自体はそのどれもが文法的な条件を満たした表現ですが、それは定型化されたチャンクであり、文法を考慮しないで、表現を行う際に容易に使うことができます。これを英語で“constructional easiness”と呼びます。ちゅうど、プレハブの家を組み立てるように、プレハブ表現を利用することで英文を組み立てやすくなるということです。

例をみてみましょう。nothing is more important than …（～ほど大切なものはない）、you're supposed to …（～することになっている）、why don't you …?（～したらどうですか）などは慣用表現です。ここでいっているのは、これらの表現が、英文を組み立てる際の型を提供するということです。例えば「布団を外にほす（air out the bedding）」ことに関心があるとします。相手に「布団外に干したら？」と提案をするには、Why don't you air out the bedding?というでしょう。この場合、why don't you … は慣用表現（プレハブ表現）で、それに air out the bedding をはめ込んでいます。表現者が行う作業は、why don't you と air out the bedding の合体だけです。また、「布団を外に干すほど大切なことはない」と言いたいとします。nothing is more important than … という慣用表現を知っていれば、それに airing out the bedding を加えることで、Nothing is more important than airing out the bedding.という表現が出来上がります。この why don't you …や nothing is more important than …は使い勝手のよい慣用表現であり、これらを駆使することで、文法的かつ自然な表現を作りだすことができるのです。

少し複雑な例を考えてみましょう。「気になるのは商品の価格じゃなくて、その質なんだ」といいたいとします。いろいろな英語表現が可能ですが、ここでも慣用表現をプレハブのように使うことができます。ここで内容を英語にすれば It's not so much the price of the product that bothers me as its quality.となります。どういうプレハブ表現が背後にあるか、以下でみてみましょう。

It's not so much (the price of the product) **that** (bothers me) **as** (its quality).

この慣用構文は、少し複雑ですが、It's not so much … as …の慣用表現に関係代名詞の that が組み込まれた形です。この構文の応用として、「問題なのはあなたが嘘をついたということ(the fact that you lied) ではなく、お金を稼いでくれないということ(the fact you don' t earn money) なのよ」という状況も次のように表現することができます。

It's not so much the fact that you lied that is a problem as the fact that you don't earn money.

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

it seems that…（～であるように思える） や what counts is …（大切なことは….だ）や it is convenient for A to …（Aが～するのは便利だ）などもここでいう表現の型としての慣用表現に含まれます。

思考の流れのナビゲーター

慣用表現には、思考の流れを調整するナビゲーターとしての働きがあります。これは、会話分析などでは“conversational management”と呼ばれるものです。 例えば、何かを言おうとしてその途中に Yeah, that's it. That's what I want to say. だとか Well, let me clarify my point.などを差し挟むことで、表現の流れを自分で調整することができるというものです。

As far as I'm concerned、I have something to tell you、I'm not saying (I don't like the idea). What I'm trying is to say is …、let me put it this way、technically speaking なども会話の流れを調整するために使う慣用表現に含まれます。一般論を述べたところで、technically speaking を差し挟めば、「やかましくいえば、厳密にいえば」という意味になり、話の流れを変える作用があります。また、ある男性について記述していて、In other words, he's a real go-getter. （言い換えれば、彼は本物のやり手ということです）のように in other words を使うことで先行する話をまとめ上げることができます。つまり、表現の流れを作るフラッグのようなものとして慣用表現は機能するのだといえます。例えば、以下をみてみましょう。

My position about the issue is not clear. Well, let me put it this way. I basically agree with Mr. Hall's proposal, but I'm not altogether happy about the details.

「ある問題についての自分の立場ははっきりしていない」ということを述べる状況です。well, let me put it this way がここでは使われています。この表現を差し挟むことで、次にいうことへの構え（レディネス）ができます。そして、I basically agree with … や but I'm not altogether (happy about) ...といった慣用チャンクを使って、言いたいことを表現するという流れを、ここでは読み取ることができます。

慣用表現連鎖とスキル

慣用表現の力は、慣用表現の連鎖（formulaic chaining）が言語スキルを形成するという視点を採用したときに、実感できます。このことは慣用表現の議論で欠けている点だといえます。プレゼンテーションや会議の司会や交渉は、訓練によって高めることができる技能（スキル）です。実際、ビジネススクールなどでは、そうした技能の習熟を課程目標に掲げることがあります。訓練可能であるということは、ある程度の行動予測（例.会議の司会者が行うことの予測）が成り立つということです。そして、ここで注目すべきは、一連

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

の流れのその都度その都度使わる言語表現は多くは慣用化されているという点です。以下では会議の司会を例にして、流れの基本フレームを示し、各々のフレームでどういう慣用表現が使われるか例示しておきます。

表現オプション

注意の喚起

Ladies and gentlemen, may I have your attention, please?

会議を始める

I'd like to start the meeting.

Shall we start now?

We'll start the meeting.

自己紹介する

Let me introduce myself. I'm …

I'll chair today's meeting.

会議の目的を述べる

The purpose of today's meeting is to discuss …

We are here today to talk about ….

The main topic on the agenda for today is …

要点をくり返す

As I said earlier …

Let me repeat the main points of our discussion so far.

話題を変える

Do you mind if I change the subject?

We have to move on to the next topic.

元の話題に戻る

To return to our main topic …

Going back to our first concern ….

誤解を解く

It seems that there has been perhaps a misunderstanding.

Let us clarify some misunderstanding here.

要約する

To summarize, we seem to agree that …

To recap the main conclusions of our discussion ….

提案に対して反対がないか確認する

Does anyone object to this proposal?

Are there any objections?

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

質問やコメントを求める

Do you have any questions or comments?

Has anyone got anything further he wishes to say?

会議を閉じる

That's all for today, thank you.

This concludes our business for today.

Our time is almost up.

この一連の基本フレームに沿って慣用表現を使うこと、これが「慣用表現連鎖」ということです。さらにいえば、例えば「話題を変える」というフレームにおいて、Do you mind if I change the subject?と相手を立てる表現を選択する場合と、Time is running out. We have to move on to the next topic.と理由を述べてストレートに話題変更の必要性を述べる表現を選択する場合があり、いずれを選ぶかは状況によって決まったり、司会者が戦略的に決めたりします。

これまで「依頼する」際には Could you please…?だとか I'd appreciate it if you could…などの機能慣用表現があり、丁寧さの程度などによってそれぞれ異なるという指摘はよく行われてきましたが、慣用表現の連鎖化が言語スキルを構成するという視点は欠けていたように思います。この視点を採用したときに、個別の慣用表現という見方から、慣用表現の連鎖が言語活動の流れの潤滑油になるという見方が生まれます。

おわりに

さて、「状況に適切な慣用表現を選択し、使用することができること」というのが慣用表現力の一般的な定義ですが、本稿での議論を通して、慣用表現力を以下のように改めて定義することができます。

慣用表現力とは以下の４つを行うことができる力である。

① 的確に意図を表現する決まり文句を選択できる。

② 慣用表現の型を利用して表現を作り出すことができる。

③ 思考の流れと言語活動を調整することができる。

④ 慣用表現を連鎖化させて、プレゼンテーションや司会などを行うことができる。

この定義が与えられることによって、学習の目標が明確になるだけでなく、慣用表現力を測定するテストの開発にも方向性が見えてくるはずです。

「提案」「依頼」「拒否」「感謝」などを表す慣用表現に注目した指導は今では、ごく当たり前の営みになっていますし、学習参考書でもそういうものを取り上げたものは珍しくありません。しかし、問題は、単語の意味を学ぶように慣用表現を個別に学んでいっても慣

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

用表現力にならないということです。学習のポイントは、ストックとしての慣用表現とフローとしての慣用表現に注目すること、そして慣用表現をストックする際には個別に表現を覚えるのではなく、「慣用表現ネットワーク」として覚えるということです。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.